

|       |  |      |  |
|-------|--|------|--|
| 区分・種別 | 県指定史跡  |      |  |
| 名称    | なかえとうじゅのやしきあと<br>中江藤樹の邸跡   |      |  |
| 所在地   | 大洲市大洲  |      |  |
| 所有者   | 愛媛県  | 管理団体 |  |
| 指定年月日 | 昭和23年10月28日  |      |  |
| 解説    | <p><small>なかえとうじゅ</small><br/>中江藤樹（1608-1648）は、江戸時代の陽明学者で、後年「近江聖人」と称えられた。藤樹は少年時代から壮年時代を大洲で過ごし、当時、彼が住んだ屋敷跡が大洲高校の一画にある。敷地面積は約983㎡あり、庭先に残る井戸は「中江の水」と称される。</p> <p>昭和14（1939）年、藤樹の遺徳をしのび、敷地の一部を造成して「至徳堂」が建築され、また、その前庭には近江国の藤樹書院から分けられた「遺愛の藤」が植えられている。</p> <p>藤樹は、9歳のとき祖父吉長（伊予大洲藩士）の養子となり、10歳のとき藩主加藤貞泰<small>さだやす</small>に従い大洲へ移り住んだ。元和8（1622）年に家督を相続し、儒学研究に没頭し高名となった。寛永11（1634）年、27歳のとき大洲の地を離れ、慶安元<small>ちこ</small>（1648）年の死まで郷里の近江にあって、陽明学の確立と「知行合一<small>ちこういつ</small>」の道を実践した。</p> |      |  |

